

平成 22 年 3 月 18 日

第 9 野菜需給協議会資料

出荷団体名：千葉県本部

千葉県（銚子）における野菜産地の状況について

1. 産地紹介

銚子市の概要

千葉県銚子市は、関東平野の最東端に位置し、太平洋を望み、温暖な気候に恵まれ古くから自然を活かした農業が盛んで、漁業と醤油づくりとともに、全国に名を馳せています。

とりわけ、農業では、冬暖かく夏涼しい海洋性気候を活用した各種野菜の生産が盛んです。

また、トンネルだいこんの作付は、全国一を誇り、キャベツ・メロンにおいても日本を代表する産地のひとつとなっています。

(参考) 基礎データ (銚子市) ※平成 17 年時点

○ キャベツ・だいこんの作付面積

品目	作付け面積 (ha)
キャベツ	1, 6 9 8 (※東京ドーム約 3 7 0 個分)
大 根	9 3 0 (※同 2 0 0 個分)

2. 生産の実態

① 播種～育苗

健康で丈夫な苗作りが収穫時の品質等に与える影響が大きくなります。そのため、発芽後の水分、温度管理に細心の注意を払い、ネットがけを行うなど、手間暇をかけています。(図 1、図 2)

② 定植

苗を植えるためのベッドを作り、機械や人力で定植をおこないます。面積が広大なので人力の場合腰をかがめたきつい作業になります。(図 3)

③ 管理作業

生育を良くするためにキャベツの間を耕したり、トンネルだいこんでは日差しの強さに合わせて換気を行ったりします。また、鳥害を防ぐために網を張ったり、農薬を散布したりしています。農薬は品目毎の規定に沿って、防除記録をつけながら、使用基準を厳守します。(図 4、図 5、図 6、図 7)

④ 収穫

収穫は畑で出荷サイズになったものを一個ずつ切り、畑で箱詰めします。キャベツは天候によって急激に成長し、取り遅れると、肥大しすぎて破裂したりして商品にならなくな

りますので、最盛期は早朝 5 時前から休む間もなく収穫を行います。(図 8)

⑤ 出荷

集荷場に集められた後、品質を保持するために冷蔵庫で冷やされた後、トラックに積み込まれ、各市場に輸送されます。(図 9)

(参考) 品目別の栽培暦の目安

○春キャベツ

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
播 種										
定 植										
収 穫										

○だいこん

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
播 種									
収 穫									

3. 産地の課題

(1) 農家戸数の減少

農業人口は平成 7 年と比べると、平成 17 年は兼業農家数が 335 戸減少していますが、経営耕地面積(畑)は、約 103ha 程度増加しています。出荷実績についてもやや増加していることから、農家一戸あたりの作付規模が大きくなっていることが、特徴となっています。

(2) 価格低落による経営の不安定化

ただし、規模拡大が進むと、生産資材コストもそれに応じて増大し、販売価格が低落したときに、コスト割れをおこし、経営が不安定化する確率が高くなります。

(参考)

○ J A ちばみどり (旧銚子農協) キャベツ・だいこんの出荷実績

単位: t	平成 7 年	平成 17 年
キャベツ	52,048	61,257
だいこん	35,466	46,383

4. 安全な農産物の出荷の取り組み (J A ちばみどり) (図 7)

○ 防除栽培履歴の記帳の徹底と管理

【※「防除栽培履歴」とは?】

- ・農作業の履歴で生産者が毎日記載する。
- ・特に、農薬の使用量や回数(履歴)を自分で確認しながら記載できる。
- ・平成 18 年度からの「ポジティブリスト制度」の導入で更に、残留農薬基準が厳しくなり、J A では防除栽培履歴の記帳を通じて安全の担保をとるようにしている。

○ J A グループ千葉の取り組み 「もっと安心農産物生産・販売運動」

(参考HP <http://www.ja-cb-mottoanshin.com/index.html>)

- ・通常と比べて農薬や化学肥料をできるだけ減らした自然環境にもやさしい安全・安心な農産物の生産・販売に取り組んでいます。

5. 安定供給のための取り組み

(1) 品質の安定、向上のための取り組み

- ・品目別に青果市場との販売検討会議・目揃え会を開催し、生産者別の品質の標準化を行っています。
- ・あわせて販売期間中に、JA・生産者等を含めた市場巡回を行い、品質の確認を行とともに、販売環境の調査を実施しています。

【※「目揃え会」とは？】

- ・JA、生産者、全農ちば、青果市場が集まり、生産者が畑からサンプルとして持ち寄った野菜の品質選別基準を一緒に確認する。大きさ・太さの基準や規格の基準を相互に確認していく。
- ・事前に基準を統一しておくことで、出荷時の標準化がスムーズになる。

(2) 安定、継続的な供給のための役割分担

(全農ちば)

- ・出荷前は、計画・安定的な出荷ができるよう、作付面積の調査や、県内JAの出荷計画の取りまとめを行い、市場への伝達を行います。
- ・販売期間中の産地生育状況について市場へ連絡を行い、安定的な販売ができるよう情報発信を実施しています。例えば、晴れが続いて出荷が急増しそうな時は、早めに連絡し量販店等での販売対策ができないか、市場を通して検討・要請を行います。

(県内JA)

- ・天候変化や病害に強い品種の選定。(別紙「作型別品種使い分け表」)
シーズン期間を通して、切れ目無く出荷し、消費者に安定的に供給していくために、品種の研究や選定を種苗会社とも連携をとりながら進めていきます。また、防除栽培履歴の管理や残留農薬検査なども行っています。

(生産者) ※雨天のときは特に大変・・・

- ・雨が降ると、圃場はぬかるんで足をとられ、まっすぐ歩けない程。キャベツの場合は通常、生産者はしゃがんで、包丁を使って根本を切り、畑に並べてから、玉サイズ(おおまかに2L、L、M)ごとに段ボールに手詰めする。この1箱10kgになるキャベツの段ボールを1ケースずつ、トラクターに積み込んでいきます。
- ・生産者は、ぬかるんだ畑で中腰の姿勢で切り取り、箱詰め、積み込みなどを行わなければなりません。
- ・更に、湿度が増したり、泥が野菜に付着したりと、病虫害が発生しやすくなります。このため、予防の農薬散布などを行わなければなりません。(この散布も栽培履歴に記帳しており、回数制限の対象になります。)

○キャベツの生産・出荷の様子



(図 1)



(図 2)



(図 3)



(図 4)



(図 5)



(図 6)



(図 7)



(図 8)



(図 9)

(別紙)

キャベツの作型別品種使い分け表

ちばみどり農業協同組合
銚子野菜連合会

作型	品種名 (種苗会社)	品種特性 注意点	生育ステージ											
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
Cブロック基準 年内取り	YR秋早生 (増田種苗)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	浜岬(T762) ☆ (タキイ種苗)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	春系305 (増田種苗)	Aブロック基準	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	金春 (サカタのタネ)	Aブロック基準	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	金系201号 (サカタのタネ)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
年内~2月取り	波ひかり (タキイ種苗)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	初夏のかほり(T766) (タキイ種苗)	多肥注意	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	YR青春 (渡辺採種場)	多肥・腐り注意	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	秋早生 (増田種苗)	5月上中旬尖り	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	YR初実636 ☆ (雪印種苗)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
春取り前半	菜園 (渡辺採種場)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	いろどり ☆ (カネコ種苗)	暑さに強く・黒腐 れに強い	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	はつだより (野崎採種場)	多肥注意 摘種早いと尖り	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	初恋 (トーホク種苗)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	珠鳳 (タキイ種苗)		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
春取り後半			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
試作導入可能			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作付け検討品種			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

平成20年~21年作

注: ○~○ 播種期 ○~▲ 育苗期 ▲~▲ 定植期 出荷期

☆は萎黄抵抗性Aタイプ
※コナガ防除と病害虫対策として、7月の播種と6月の収穫は、できる限り避けよう。
上記奨励品種以外は、別扱いとなります。品種の統一にご協力願います。莖腐については、食味に差があるため作付け検討品種としました。
年内取種の初選は奨励品種外とし、別共計となります。
また、選期以外に播種すると、品種の特性を失うものが多くあります。上記品種でも、品種の特性を著しく失ったものは、別扱いとなります。

前作に緑肥の作付けを増反しましょう。

大根の作型別品種使い分け表

ちばみどり農業協同組合
銚子野菜連合会

作型		品種名 (種苗会社)	奨励品種 品種特性 注意点	月											
				8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
晩夏蒔き		献夏37号 (サカタのタネ)	幼苗時にアブラムシがつきやすい。 施肥は控えめとする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		福馨 (みかど協和)	幼苗時にアブラムシがつきやすい。 施肥は控えめとする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		福天下 (みかど協和)	遅蒔きは短根になる。取り遅れはすがあく 9月下旬以降は、マルチ栽培	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		優等生 (ナント青種)	遅まきは短根になる。 9月下旬以降は、マルチトンネル栽培	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
秋蒔き		冬人88 (ナント青種)	早まきすると長くなる場合あり。 定期的な葉軟を心がける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		冬みね (サカタのタネ)	マルチベタガケで蒔種し、12月上旬より トンネルをかける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
晩秋～初冬蒔き		初蒼 (みかど協和)	遅いと低温による空洞発生注意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		春慶 (ナント青種)	早取りすると先細り、遅期収穫する 葉柄短し	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		春風太 (雪印種苗)	苗部の汚れ注意。ヒゲ根が欠くなる。 生育遅い。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ぬける根 (シンエンガーシード)	早蒔きは短根になる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
冬蒔き		YR春人 (ナント青種)	抽苔の心配少ない。生育は遅め。 早まきは短根になりやすい。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
春蒔き		喜太一 (雪印種苗)	生育初期中は低温に弱め、後期は 寒気を大きくする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
試作導入可能		ウィンター (たねや)	遅まきは抽苔、短根になる場合あり。 遅期に蒔きすること。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		貴馨 (みかど協和)	低温による抽苔のおそれがあるため 1月蒔き注意 ベタがけを	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		冬の浦 (カネコ種苗)	遅まきは抽苔、短根になる場合あり。 遅期に蒔きすること。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

注: ○～○ 播種期 ◎ トンネル ● べたがけ

出荷期

平成20年～21年作

上記奨励品種以外は、別扱いとなります。品種の統一にご協力願います。 適期蒔きをお願いします。

前作に緑肥の作付けを増反しましょう。